



社会福祉法人 恩賜財団 済生会和歌山病院

〒640-8158 和歌山市十二番丁45番地

TEL. 073-424-5185

FAX. 073-425-6485

ホームページ: <http://www.saiseikai-wakayama.org/>



済生会

わかやま

NEWS

増刊号

発行日: 2020.10



～ 理念 ～

私たちは、地域社会に親しまれ、信頼され、患者さんも職員も元気が出る病院をめざします。

～ 基本方針 ～

1. 急性期医療を基本に機能と特性を明確にする。
2. 患者さんの立場に立って、安全で質の高い医療を効率的に提供する。
3. 透明性、公共性を保ち、地域社会と連携を密にし、地域から求められる病院にする。

患者さんの権利と責務

1. 平等に良質で適切な医療を受ける権利があります。
2. 医療に際して十分な説明を受ける権利があります。
3. 検査・治療等に際してそれを受ける事を自己の判断のもと承諾あるいは、拒否する権利があります。
4. 医療のどの段階においても他の医師や医療機関の意見を求める権利があります。
5. 自己の病状について情報を得る権利があります。
6. 自己の病状について個人的情報の秘密を守られる権利があります。
7. 医療に関する苦情を申し立てる権利があります。
8. 良質な医療を実現するために、自己の健康状態に関する情報を正確に伝える責務があります。
9. 治療費を支払う責務があります。
10. 良好な療養生活を守るために、定められた諸規則を守る責務があります。
11. 医師・看護師や病院職員の指示に従う責務があります。

— Information —

～患者さんを中心とした 垣根のない役割分担と相互連携～

皆様におかれましては、平素よりご指導賜り誠にありがとうございます。

早いもので私が済生会和歌山病院に赴任し、約半年が経過いたしました。

赴任当初より“医療とは医師が中心ではなく患者さんが中心にあるもの”を肝に銘じ、日々そのようなチーム医療を提供するために当院がすべき事を考えて参りました。まず、チーム医療を提供するためには、それぞれのメディカルスタッフが専門職として自覚と責任を持つことが必要だと考えました。

そこで診療科任せであった院内カンファレンスを全診療科、事務まで含めた多職種が参加し、それぞれが専門職として1人の患者さんの治療から退院後の生活面まで含めた情報を共有できるようにしました。医師が参加するカンファレンスでは医師中心になりがちですが、そこに職種間の垣根があってはならないため、医師による他職種が積極的に意見を言える雰囲気作りも重要となります。そうすることで患者さんの健康状態だけではなく心理面や社会的背景の情報も共有できるようになりました。もちろんそれは地域の医療・介護機関との連携においても言えることです。急性期病院である当院の医師が担う役割、開業医の先生方が担う役割、当院看護師やメディカルスタッフが担う役割、ケアマネジャー・ヘルパーが担う役割等々、役割はそれぞれ異なるように見えますが、それが統合されて初めて患者さんを中心とした地域医療が可能になります。役割の違う病院と地域とが横並びで情報共有・意見交換を行い、それぞれが専門職として1人の患者さんのために役割を果たすことが重要と考えています。

このような垣根のない役割分担と相互連携が地域全体で行えることを目指し、患者さんを中心に地域から信頼していただける病院作りを目指して参ります。

今度ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



済生会和歌山病院
院長 川上 守

整形外科

当院、整形外科では令和2年4月より院長として川上守が着任し半年が経過いたしました。

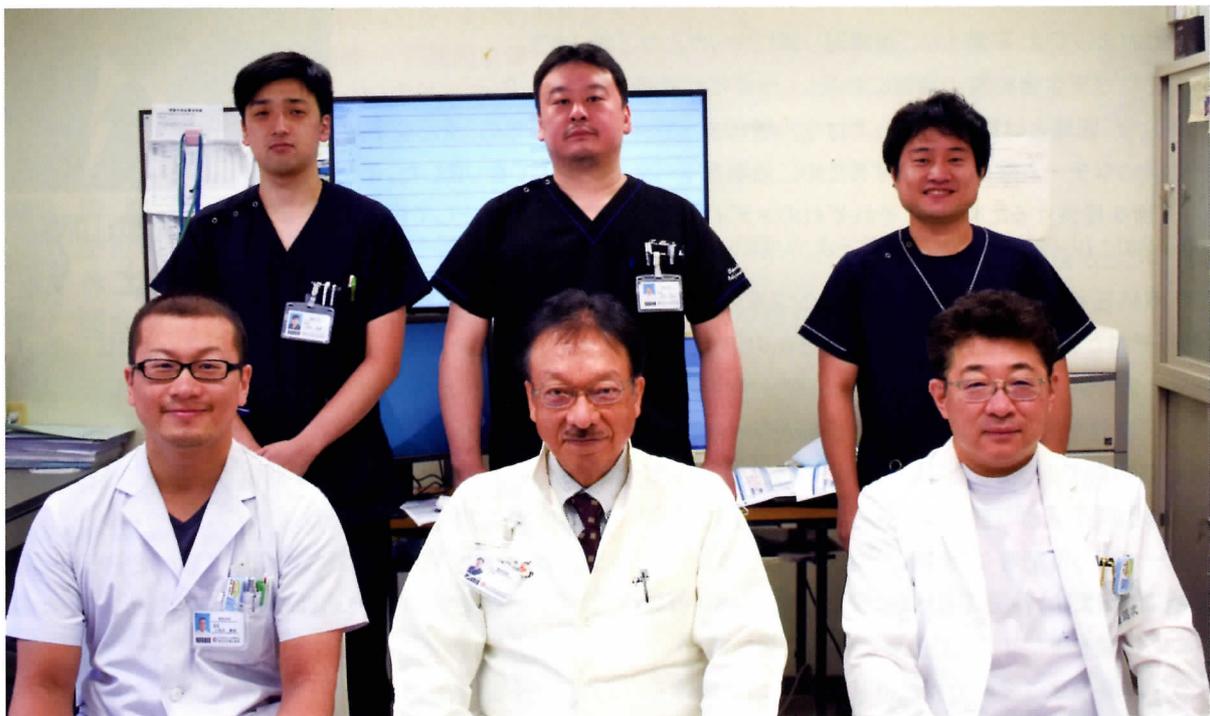
現在、6名の整形外科常勤医が在籍し日々の診療を行っております。

令和元年度の年間の手術件数は665例で、人工関節置換術166例（股関節121例・膝関節45例）、脊椎内視鏡手術78例と県内トップクラスの件数を実施いたしております。

平成16年からMIS（最小侵襲手術）による人工股関節全置換術を導入し、皮膚を切開する長さを小さくし、筋肉を切らずに温存する方法を取り入れてきました。現在までに、2,100例以上の患者様に手術を受けて頂いております。また、コンピューター支援手術「ナビゲーションシステム」を導入し、大きさや形状が異なる骨盤に対して、最適な位置を計測、術中もモニターを確認を行うことでより正確な位置への人工関節の設置が可能となりました。近年では膝関節の治療方法も大きく進歩し、変形性膝関節症に対して積極的に侵襲の少ない部分置換術を導入し、患者様に満足して頂けるよう努めております。術後状態により、併設の回復期リハビリテーション病棟に転棟し、速やかに専門的リハビリテーションを受けて頂けるのも当院の特徴であります。

ご周知の通り、低侵襲の人工関節置換術をはじめとした関節疾患はもとより、骨折などの外傷、腰部脊柱管狭窄症・脊椎脊髄疾患診療や骨粗鬆症治療にも力を入れて取り組んでいます。今後、脊椎内視鏡手術に加え、脊椎固定術、椎体骨折に対する椎体形成手術など脊椎疾患への対応にも力を入れて参ります。

当院理念でもある、地域社会に親しまれ、信頼される整形外科医療を提供できますよう、救急医療や、地域の先生方からのご紹介に迅速に対応すること、患者さんに安心して治療を受けていただける診療を心がけて参ります。今後も地域医療連携室を窓口とし、地域のニーズに応え、精進して参りますので、より一層ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



糖尿病・代謝内科

いつも登録医の先生始め、地域の先生には大変お世話になっております。

現在当科では、英をはじめ、太地真衣美、福田咲子、藤原舞美で診療にあたっています。メンバーが大幅に入れ替わり、若返りました。糖尿病を中心に、一般内科、2次までの救急疾患を受け持たせていただいています。

歴史ある当院糖尿病ケアグループ(DCT)は活発に活動しており、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師それぞれの職種に糖尿病療養指導士の資格認定者がおり、多職種で療養指導を行っています。済生会本部から出されているシリーズ「済生の力第14集」にも当院が取り上げられました。2週間(期間短縮可)のDMパス入院は、ご希望があればいつでも入院可能で、他科の空き部屋を利用して、例年30-40例入院いただいています。

また、2週間限定ですが、1型2型インスリン使用の有無を問わない、リブレPro装着も可能ですので、ご紹介いただければ、血糖パターン解析、栄養指導結果をお付けして報告させていただきます。ご希望ございましたら、地域連携室よりご予約ください。

当院の立ち位置は、地域医療を担われている開業医の先生方と、3次救急を担っている和歌山県立医大、和歌山日赤医療センター、和歌山ろうさい病院の間を担う病院であると考えています。その中で、当科は糖尿病という専門性を持ち、院内他科と協働しながら、一般内科診療を行っております。病態によっては3次救急に転送させていただく場合も考えられますが、まず当科で診断、判断させていただき、対応させて頂いております。明らかな3次救急以外は対応させていただきますので、ご相談ください。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



地域に求められる脳神経外科診療を目指して

当院脳神経外科が地域医療において果たす役割として、最も必要とされているのは救急診療です。特に急性期脳卒中や頭部外傷、めまいやてんかんなど、様々な脳神経2次救急疾患の受け入れは近隣の医療機関や消防から高いニーズがあり、救急要請に対しては断ることのない受け入れ態勢を心がけています。

特に頻度の高い疾患は急性期脳卒中であり、その中でも最も頻度が高いのが脳梗塞です。当院は一次脳卒中センターとして脳卒中専門医のもと常に脳卒中患者を受け入れ、発症4.5時間以内の超急性期にはrt-PA静注療法などの治療を行います。また、脳出血やくも膜下出血などの出血性脳卒中では救命・機能予後改善のため、開頭や穿頭定位的血腫除去などを行います。また脳卒中患者の機能回復には、回復期リハビリ病棟を有する利点を生かし、急性期病棟から回復期リハビリ病棟へとスムーズに移行することにより、より確実な機能回復、家庭復帰を目指しています。

脊椎脊髄疾患に対しては専門医により年間約100例の顕微鏡下手術を行っています。脊柱管狭窄症や椎間板ヘルニアをはじめ、脊髄腫瘍や脊髄空洞症に対する手術加療も行っています。すべり症など不安定性の強い症例に対しては、スクリューやチタンケージ、自家骨を使用した脊椎固定術も取り入れています。術後鎮痛に対しても投与薬を工夫し、苦痛の少ない診療を心がけています。

機能的脳神経疾患では「三叉神経痛・片側顔面痙攣・舌咽神経痛に対する専門外来」を開設しており、これらの疾患に対する治療として微小血管減圧術(MVD)を行っています。ペインクリニックや耳鼻科、眼科、歯科などより幅広く紹介を頂いております。さらには、パーキンソン病、本態性振戦、ジストニアなどの神経変性疾患に対する脳深部刺激術(DBS)、難治性疼痛や痙攣に対する脊髄硬膜外刺激術(SCS)や髄腔内パクロフェン療法(ITB)・ボトックス治療など、様々な機能的脳疾患にも対応いたします。

また高齢者に要望の高い認知症の早期発見早期治療のため、2年前より認知症専門医による「物忘れ外来」を行っておりますが、開設以来すでに新患約400例の診療を行っております。

以上、急性期から慢性期まで、あらゆる脳神経疾患に対応して地域医療に貢献して参りますので、これからも宜しくお願い申し上げます。



私たちは、一般開業クリニックの身近な循環器専門施設を目指して、日夜研鑽しております。健診での異常精査、循環器疾患らしくなさそうな動悸などのスクリーニングなどから、急性心筋梗塞や頻脈発作、急性心不全など専門的治療が必要なものまで、一般循環器疾患にすべて対応しております。また、処方も含めた日頃の外来管理については患者を先生方にお返しし、半年から1年ごとに当科でも外来検査という病診連携を基本方針にしております。何卒当科をご利用いただけますよう、よろしくお願いいたします。

◎主な診療疾患

1.高血圧症

難治性高血圧症の薬物調節や、2次性高血圧症疑いの精査を行っており、腎動脈狭窄症のステント治療も可能です。また高血圧症を初めて指摘されたような軽症患者に対しても、原因スクリーニング、生活食事指導、薬物調節を行います。

2.冠動脈疾患

緊急を要するST上昇型急性心筋梗塞に対して、心臓カテーテル手術を行っており、来院から再灌流まで90分以内(国が定める基準時間)で治療が可能な体制を構築しております。また胸部症状を有する患者には、問診を大切に、それに加えてトレッドミル検査、冠動脈CT検査などを用いて丁寧に診断を行っております。またカテーテル血行再建手術だけでなく、動脈硬化因子の管理(禁煙外来含む)を実施しております。

3.不整脈

持続する頻脈、徐脈など緊急を要するものから、脈の結滞や心電図検査でたまたま見つかった期外収縮、さらに不整脈らしくない動悸症状なども丁寧に診察しております。また頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーションについても、適応を判断して、希望の病院*に紹介しております。

4.心臓弁膜症

テレビコマーシャルで啓蒙されるほど、弁膜症もCommon diseaseとなってきております。聴診にて心雑音を聴取されましたら、是非ご紹介いただけましたら、幸いです。手術が必要となりましたら、希望の病院*に紹介いたします。

*当院では心臓手術を実施していないため、本当に患者の希望する病院どこへでも紹介することもメリットと考えています(東京都内など県外有名病院実績あり)。

5.心不全・下腿浮腫

上記1から5が原因で生じてくる心不全状態について迅速な入院対応をおこなっております。下腿浮腫についても、心性浮腫かどうか利尿薬が必要かどうか、丁寧な診療を行っております。

6.その他(一般内科診療)

当院では、糖尿病・代謝内科と循環器科で分担して、発熱、感冒、呼吸器感染症、尿路感染症などの一般内科疾患の診療にあたっております。

心臓血管外科

我々心臓血管外科では、①腹部大動脈以下の末梢動脈 ②静脈 ③リンパ浮腫を3本の柱とした「血管外科疾患」に対して診療を行っています。

①動脈疾患

i) 腹部大動脈瘤

従来の人工血管置換術はもとより、高齢者には低侵襲なカテーテルによるステントグラフト内挿術を行います。

ii) 閉塞性動脈硬化症

進歩著しいカテーテル治療と依然として重要なバイパス手術の双方を検討し、それらを組み合わせたハイブリッド治療も行います。

高齢化、透析患者の増加で病変だけではなく病態も複雑化しています。循環器内科、腎センター、IVR専門医、血管診療技師、臨床工学技士とともにオーダーメイドの診断・治療を心がけています。また、重症虚血趾に対しては、皮膚科、整形外科、リハビリテーション科とともに、単純な救趾だけではない道を考えます。

②静脈疾患

i) 下肢静脈瘤

カテーテルによる日帰り手術を基本としています。

ii) 深部静脈血栓症

外来治療から入院治療まで、迅速な診断と治療を行います。

必要に応じてフィルター留置、血栓溶解療法を行います。

③リンパ浮腫

診断から複合的理学療法まで行います。

外来紹介は毎日お引き受けいたします。「疑い」から「相談」までまずご連絡ください。「血管診療チーム」の一員として他領域の血管病変についても必要科に紹介させていただきます。また、ハイリスクな症例は県立医大心臓血管外科と連携して治療に当たらせていただきます。



高齢化、糖尿病、透析患者の増加に伴い、動脈硬化性疾患はより複雑化しています。当院では脳神経外科・循環器内科・心臓血管外科・腎センターが協力し、まさに「頭の前からつま先まで」迅速な診断から最適な治療まで血管診療をチームで行います。

腎センター

当院の腎センターは、CKD（慢性腎臓病）の予防・早期発見から透析導入、維持透析、合併症管理まで腎臓病をトータルに診療する体制を整えています。病診連携システムを通して、周辺の医療機関から各種の腎臓関連疾患をご紹介頂いており、保存期腎外来には多くの患者さんが通院されています。薬物治療だけでなく、禁煙、食事、運動などの生活習慣にも力を入れています。透析クリニックとの病診連携も重視しており、慢性透析患者さんが各種合併症で入院された際の血液透析にも対応しております。年間20人前後を新規に透析導入し、常時50～60人前後の患者さんが透析治療を受けています。和歌山県内や泉南地区の近隣病院から整形外科疾患、消化器疾患、循環器疾患、脳血管障害、脊椎脊髄疾患、糖尿病、下肢閉塞性動脈硬化症などの合併症治療を目的としたCKD患者さん、透析患者さんを多数受け入れて地域の基幹病院として、透析医療の中心的機能を果たしております。さらに急性期病院としての役割も担っているため、院外・院内から依頼されたAKI（急性腎障害）に対する血液浄化療法も実施しております。現在、当センターでは、26台の血液透析ベッドを保有し、腎機能代行療法はもちろん、下肢閉塞性動脈硬化症に対するLDL吸着療法、潰瘍性大腸炎に対するGCAP（顆粒球除去療法）、肝不全に対する血漿交換療法、重症敗血症に対するエンドトキシン吸着などのアフェレシス療法も行っています。今後も地域に根ざしたCKD対策を展開していく所存ですので、よろしくお願い申し上げます。



アットホームな雰囲気透析室では、若手、中堅、ベテランの女性看護師、マッチョ系男性看護師、機動力に長けた臨床工学技士など多彩な顔ぶれで構成されています。シャント穿刺の技術は高く、日頃からスタッフとの何気ない会話を通して癒される患者さんも多いため、大変好評を頂いております。

放射線科

当院では常勤の放射線専門医が頭部、胸部、腹部領域、整形領域などの全ての領域の画像を読影し、迅速に所見を報告しています。

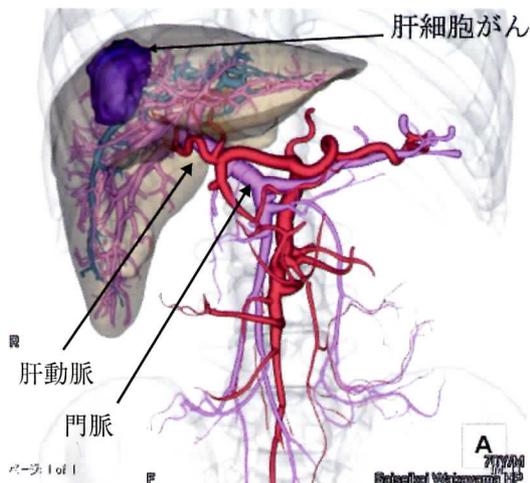
当院では2019年6月に最新の64列マルチディテクターCT装置(図1)を導入しました。このCT装置は新しい逐次近似応用再構成法を用い画像再構成を行うことによって以前使用していた装置より少ない線量で検査が行えます(被ばく低減)。

また、人工関節などによる体内金属のメタルアーチファクトの少ない画像を撮影することができます。さらに、コンピュータの処理速度が速くなり画像の提供時間が短縮されています。以上の利点を生かして画像診断のみならず、手術などの治療方針の決定、患者さんへの解りやすい説明などの目的で以前より積極的にCT検査が施行されています。(図2)

また、当科は以前から主に当院消化器内科と連携し、経カテーテル治療(肝動脈塞栓療法など)による肝細胞癌の治療を多数施行しています。



(図1) Revolution EVO64列 GE Healthcare製



◎肝細胞癌例

このように治療(手術)前に肝動脈、門脈の走行などが以前より詳細に評価可能となりより正確な手術施行に有用となりました。また、患者さんへのより解りやすい説明が可能となりました。

(図2)

リハビリテーション科

済生会和歌山病院リハビリテーション科は、「地域社会に親しまれ、信頼され、患者さんも職員も元気が出る病院をめざします」という理念のもと、地域に根ざした医療機関となるよう日々の診療に取り組んでおります。

当科の構成要員は、2020年9月時点で、医師2名・理学療法士13名・作業療法士4名・言語聴覚士2名です。リハビリテーション専門医・指導医、糖尿病療養指導士、呼吸療法士、心臓リハビリテーション指導士、脳血管認定理学療法士の資格を持ったスタッフが在籍しており、専門的な治療に対応しております。また、疾患別リハビリテーションで施設基準(I)を取得し、患者さんに対して重点的にリハビリテーション治療を実施しております。2020年8月からは日本リハビリテーション医学会研修施設に認定されました。

入院患者さんに早期からリハビリテーション治療を提供できるように、全診療科に協力をいただき、脳血管疾患では入院翌日から、整形外科疾患では手術翌日からのリハビリテーション治療を実施しております。2019年度には年間1,250名の患者さんのリハビリテーション治療にあたりました。

当院には40床の回復期リハビリテーション病棟があり、主に亜急性期の患者さんに対して集中的リハビリテーション治療を提供しています。回復期リハビリテーション施設基準3を取得し、2020年8月時点で在宅復帰率は90%、治療効果の指標である実績指数は65.3点でした。

我々はリハビリテーション治療を通じて、患者さんの活動を育み、生き生きとした暮らしを届けられるよう、より一層医療サービスの向上に努めていく所存でございます。今後とも先生方より御支援を賜りますようお願い申し上げます。



外科(消化器)

2018年10月1日から外科が新体制になり、診療内容が、乳腺外科・呼吸器外科中心の診療から消化器外科の診療、特に内視鏡外科(腹腔鏡手術)治療が中心になりました。

技術的特性をいかながら根治性・機能温存を求めつつ身体にやさしい低侵襲な腹腔鏡手術を行っています。

当科の腹腔鏡手術システムを用いた手術の特色は、立体構築画像システム(3D-CT)による術前シミュレーションの施行、ICG蛍光観察システム搭載型腹腔鏡システム・高解像度高輝度パネルディスプレイ・術中エコー検査の使用、コンピューター制御システム搭載電気メスなど高性能な止血デバイスの使用等であり、術中診断とともに安全なナビゲーションサージェリーが可能となっています。

胃・腸・肝・脾・胆石症・ヘルニア等の各種疾患に対する腹腔鏡手術が可能です。

特に、肛門に近い下部直腸癌に対しては、より専門的な治療が可能です。永久的人工肛門を回避するための自然肛門温存手術(内肛門括約筋切除による超低位前方切除術)は難度が高く、腹腔鏡手技により完遂することができる和歌山県下では数少ない施設となっています。腹腔鏡下肝切除手術も手技の困難性や厳しい適応基準のため、数少ない施設でしか施行できませんでしたが、当科でも日常診療で行うことが可能となっています。体外から穿刺困難なラジオ波焼灼療法(RFA)肝癌症例に対しても、腹腔鏡を併用することによりRFA処置が可能となり肝癌に対する治療の選択肢も増えました。胃癌に対しては完全腹腔鏡下手術が可能となり、従来の腹腔鏡補助下手術よりも低侵襲な手術を行っています。難度の高い体腔内吻合縫合技術が必要となりますが日常診療で行うことが可能となっています。

また、通常の開腹手術や肛門疾患、化学療法や高カロリー輸液投与のためのCVポート作成、胃瘻腸瘻造設なども行っています。個々の症例に対するベストな治療法についてご相談させていただきたいと思います。

■大腸肛門病センター

2018年10月から外科が新体制になり消化器外科疾患の診療に取り組んでまいりました。

2019年には消化器内科との連携による消化器病センターを発足致しました。

2020年1月、診療実績を評価頂き、日本大腸肛門病学会の認定施設に認定されました。

これまで以上に大腸肛門病疾患に悩まれる患者さんの治療に専念するため、大腸肛門病センターを開設しました。

大腸癌に対する集学的治療・低侵襲手術(腹腔鏡手術)・機能温存手術(自然肛門温存手術)の継続とともに、痔核、痔瘻、裂肛、直腸脱など肛門周囲疾患に対する治療に、これまで以上に幅広く対応しています。

肛門周囲にお悩みのある患者さんのご希望にお答えしたいと思います。

消化器内科

消化器内科は、地域の開業医の先生方のニーズに、迅速かつ気軽にお応えするように心掛けております。

当院は和歌山市内中心部に位置する2次救急病院であり、地域の先生方のかかりつけ患者さん、当院通院中の患者さんが、腹痛、嘔吐、下痢、発熱などの症状を呈する場合に、消化器疾患検査（腹部エコー、CT、MRI、緊急血液検査、胃カメラ、大腸内視鏡、ERCP）を行い、その日のうちに結論を出し、治療方針を決定、消化器病センター外科医師と協力の上で、治療を行っております。

当院は日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会指導施設、日本肝臓学会指導施設、日本内科学会教育関連病院（和歌山県立医科大学）で、和歌山県立医科大学第2内科（消化器内科）の関連施設となっており、内視鏡検査医の応援、週1回は和歌山県立医科大学救急部からの応援を頂いております。

胆・膵領域に関してですが、主に総胆管結石に対する内視鏡的摘出術を行っております。

超音波内視鏡による診断、治療が必要な場合は、和歌山県立医科大学消化器内科と連携し、紹介をさせて頂いております。

高齢、嚥下困難で低栄養の患者様に対する内視鏡的胃瘻造設術を行っており、最近では症例数が増加して来ております。

C型慢性肝炎・代償性肝硬変に対する抗ウイルス治療は、より安全に100%近い著効率が得られるようになっております。

日本肝臓学会のガイドラインに則って、HCV Genotype1型に対してはマヴィレット®、ハーボニー®、エレルサ・グラジナ®を、2型に対してはマヴィレット®、ハーボニー®を行っております。非代償性肝硬変患者に対しては予備能を考慮して、エプクルーサ®を行っております。B型慢性肝炎/肝硬変に対しては、ペグインターフェロン療法、核酸アナログ治療（ベムリディ®、エンテカビル®）を行っております。NASHに関しては、済生会吹田病院を中心とした全国済生会肝臓共同研究グループの共同研究の一環で、肝生検組織の検討を行っており、症例登録を行い、予後調査を行っております。

肝がんに対するラジオ波焼灼療法（RFA）ですが、治療困難な部位に対しては人工胸水や人工腹水を作成したり、CT、MRIのバーチャル画像を利用した治療支援システムを併用しております。RFAは和歌山県立医大消化器内科からご協力を頂いております。患者さんによっては、外科と協力の上で、全身麻酔下腹腔鏡下RFAも行っております。肝がんに対する化学療法は各種分子標的治療を導入しており、RFAや手術の適応外で所謂、intermediate stageの患者さんにも積極的に分子標的薬の導入を行っております。

慢性肝疾患/肝硬変患者さんに対しては、院内でチームを組み、薬物・栄養治療を行っております。近年、肝臓疾患は多様化し、さまざまな検査・治療があります。その中で患者様にはご自分の病気をご理解し治療に励んで頂くことが重要ですが、現実的になかなか難しいのが最近の医療の問題点の一つであると思います。そこで当院では、肝炎、肝硬変の患者さまと御家族の方々のために、肝臓病教室を隔月で行い（無料、年1回5月は院外で市民公開講座）、皆様方の勉強・交流の場を設けております。



济生会和歌山病院外来診療予定表

(令和2年10月1日現在)

区分		月	火	水	木	金
内科	糖尿病代謝内科	藤原 舞美	福田 咲子 英 肇	太地 真衣美 担当医	英 肇	藤原 舞美 福田 咲子
	循環器内科	尾鼻 正弘 禁煙外来(午後~)	— 医大応援医師	— 尾鼻 正弘	下角 あい子 第2,第4のみ (1,3,5週目休診)	医大応援医師 下角 あい子
	呼吸器内科	—	—	赤松 弘朗 (原則紹介患者のみ)	—	—
脳神経外科		岸野 洋子 三木 潤一郎	小倉 光博※1 —	小倉 光博※1 (もの忘れ外来) 岸野 洋子	小倉 光博※1 (もの忘れ外来) 三木 潤一郎	仲 寛 (第1,3,4,5週) 山家 弘雄 (第2週)
消化器病センター 大腸肛門病センター	消化器内科	川口 雅功	—	川口 雅功	—	川口 雅功
	外科(消化器)	堀田 司※2 合田 太郎	交代制	堀田 司※2 小林 良平	交代制	合田 太郎 (第1,4,5週) 小林 良平
心臓血管外科		湯崎 充	高垣 有作 (リンパ浮腫)	湯崎 充	上松 耕太 湯崎 充	湯崎 充
整形外科		橋本 光司 岡田 紗枝 前田 孝治 —	川上 守 山崎 悟 久保井 勇樹 星野 晃廣	新患診	川上 守 山崎 悟 前田 孝治 橋本 光司	岡田 紗枝 久保井 勇樹 星野 晃廣 —
人工関節センター		—	—	—	松崎 交作	—
リハビリテーション科		坂野 元彦	坂野 元彦	坂野 元彦	坂野 元彦	医大応援医師
耳鼻咽喉科		医大応援医師	—	熊代 奈央子	—	—
腎センター		—	—	—	岡本 昌典	—
眼科		鈴木 映美 吉田 太理	小門 正英	—	松下 愛	西 晃佑
皮膚科		西口 麻奈	—	山本 有紀※3	—	—
泌尿器科		—	—	康原 根浩	—	上野 駿

専門外来

- ※1 脳神経外科小倉光博医師(火・水・木)の外来では一般診療に加え、
専門外来(三叉神経痛・片側顔面麻痺・舌咽神経痛)を行っております。
- ※2 外科堀田司医師(月・水)の外来では一般診療に加え、肛門外来を行っております。
- ※3 皮膚科山本有紀医師(水曜日)は皮膚科専門外来の為、予約診のみとなります。



診療案内

診察日: 月~金曜日
 受付時間: 午前8時30分~午前11時(但し、予約患者はこの限りにあらず/火・木 整形外科 川上は8:30~15:00)
 休診日: 土・日・祝祭日(年末年始)
 面会時間: 月~金曜日 午後2時~午後7時 土・日・祝祭日 午前10時~午後7時



ご紹介の際は、患者さんの待ち時間短縮の為にもご予約をお取り
 下さいます様お願いいたします。

交通案内

- JR和歌山駅から和歌山バス約10分「京橋」下車、徒歩すぐ
- 南海和歌山市駅から和歌山バス約5分「京橋」下車、徒歩すぐ

地域医療連携室

TEL (073) 424-5186 FAX (073) 424-5187